

待機児童解消

×

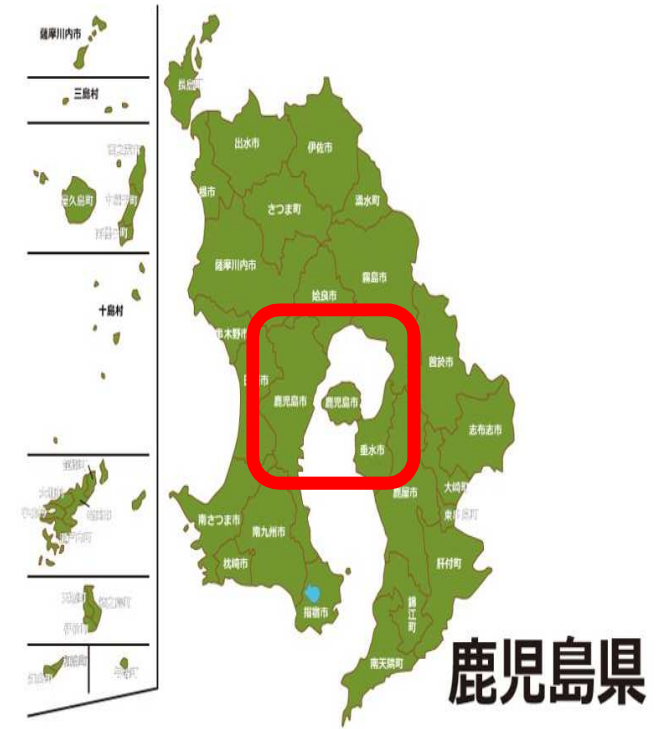
シニア

キャンパスライフ

チーム くさのうち

対象地域：鹿児島市

- 鹿児島県の県庁所在地
- 鹿児島県の中部に位置する
- 面積 約547.06km²
- 人口 約59.3239万人
- 南九州地域の主要拠点都市の1つ



→鹿児島県の
約3分の1の人口が集中している

鹿児島市の課題①：待機児童が多い

メニュー

検索

朝日新聞
DIGITAL

新着

会員登録

＜待機児童数の多い上位10地方自治体＞

待機児童、**全国ワースト6位** 保育士の確保急務 鹿児島

木脇みのり

2020年11月26日09時30分



	都道府県	市区町村	令和2年4月 待機児童数
1	埼玉県	さいたま市	387人
2	兵庫県	明石市	365人
3	兵庫県	西宮市	345人
4	岡山県	岡山市	259人
5	兵庫県	尼崎市	236人
6	鹿児島県	鹿児島市	216人
7	東京都	江戸川区	203人
8	東京都	中央区	202人
9	千葉県	船橋市	197人
10	沖縄県	南風原町	194人

出典：
朝日新聞デジタル

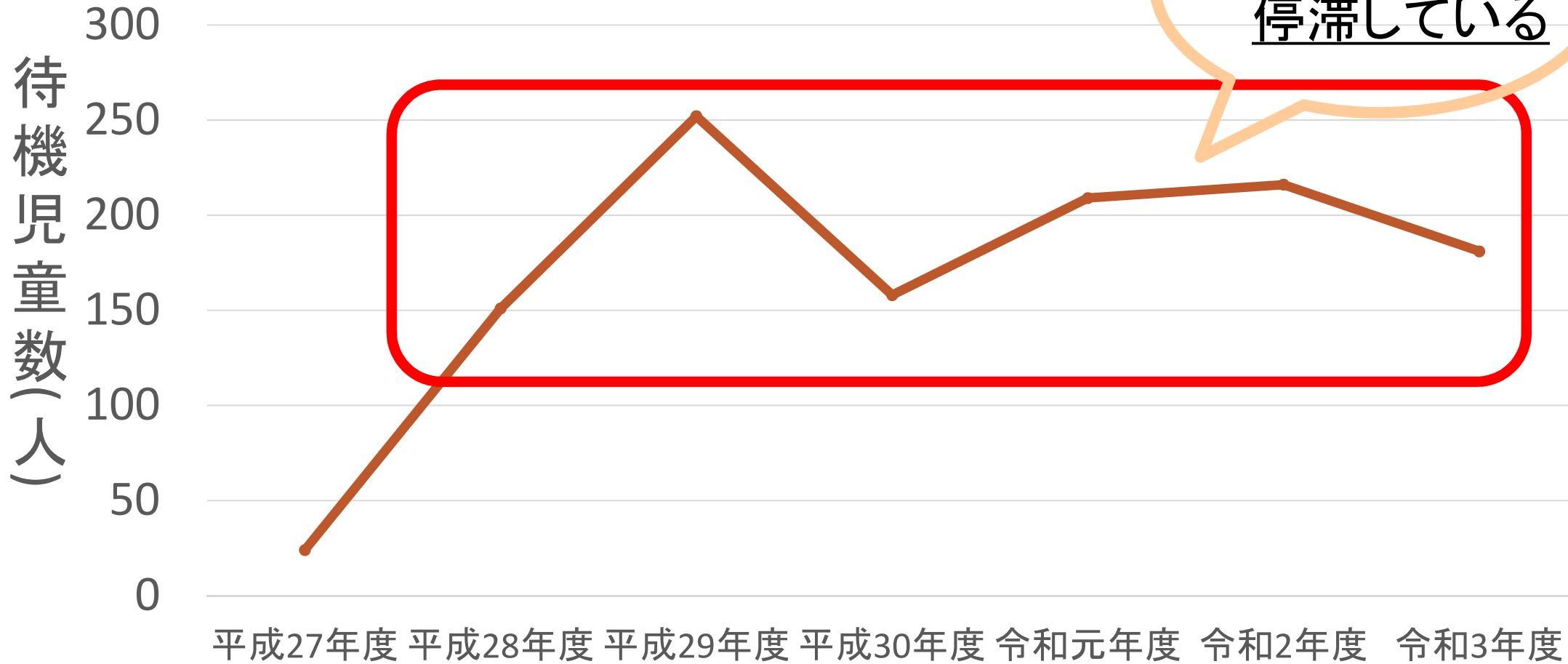
鹿児島市における令和2年度の待機児童数が、

全国の市町村で6番目に多いという調査結果

出典：厚生労働省

鹿児島市の待機児童数の推移

鹿児島市の待機児童数



増加したまま
停滞している

出典:厚生労働省 報道発表資料

待機児童数と教育・保育施設数との関係

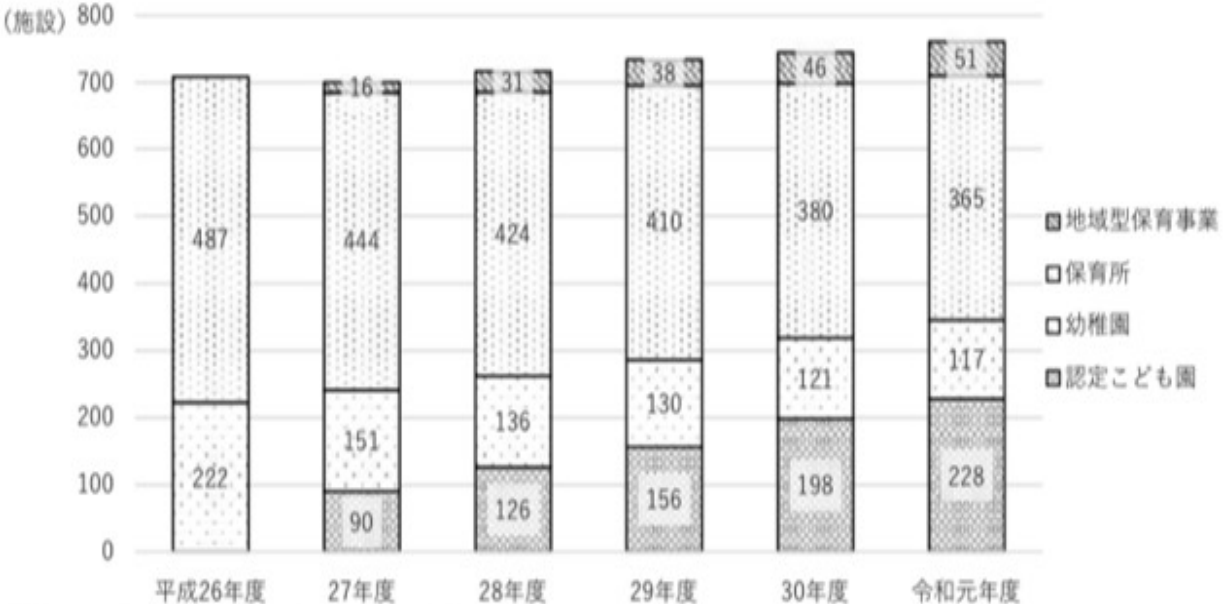
(1) 教育・保育施設の状況

① 施設の推移

県内の教育・保育等の施設数は、2015（平成27）年度の子ども・子育て支援新制度開始時において、701施設（幼稚園151施設、保育所444施設、認定こども園90施設、地域型保育事業16施設）でした。

2019（令和元）年度は761施設（幼稚園117施設、保育所365施設、認定こども園228施設、地域型保育事業51施設）であり、2015（平成27）年度と比較すると **60施設増加しています。**

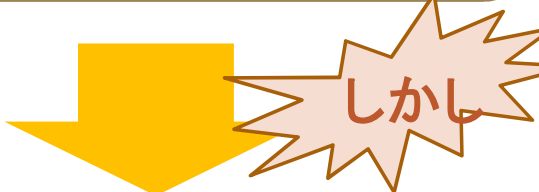
図表-120 教育・保育施設等の推移



資料：県子育て支援課調べ（分園、休園を除く）

出典：鹿児島県HP

鹿児島県は2015年から2019年にかけて教育・保育施設を **60施設増やしている**



待機児童数は **増加傾向**



施設を増やすだけでは待機児童の解消は見込めない！？

鹿児島市の課題②: 保育士不足

保育士を含む社会福祉の専門的職業の

有効求人倍率

年々
増加傾向



保育を取り巻く環境をデータでチェック

鹿児島県内の「保育士不足」が深刻!

鹿児島県内の保育士の有効求人数と有効求職者数の推移
(鹿児島労働局「常用福祉の職業」から算定)



子ども・子育て支援新制度において保育の量的拡大が求められる中、鹿児島県内の保育士不足は年々深刻になっていきます。

左のグラフは、鹿児島県内の保育士の有効求人数と有効求職者数の推移です。平成27年度を境に、有効求人数と有効求職者数が逆転。平成30年度の有効求人倍率は1・89と非常に高くなっています。

こうした保育士不足の現状を、県内の保育施設はどのように受け止めているのでしょうか。

保育士の有効求人数が年々上昇
平成30年度の有効求人倍率は1・89

出典: 鹿児島県

↑厚生労働省鹿児島労働局のデータをもとに作成

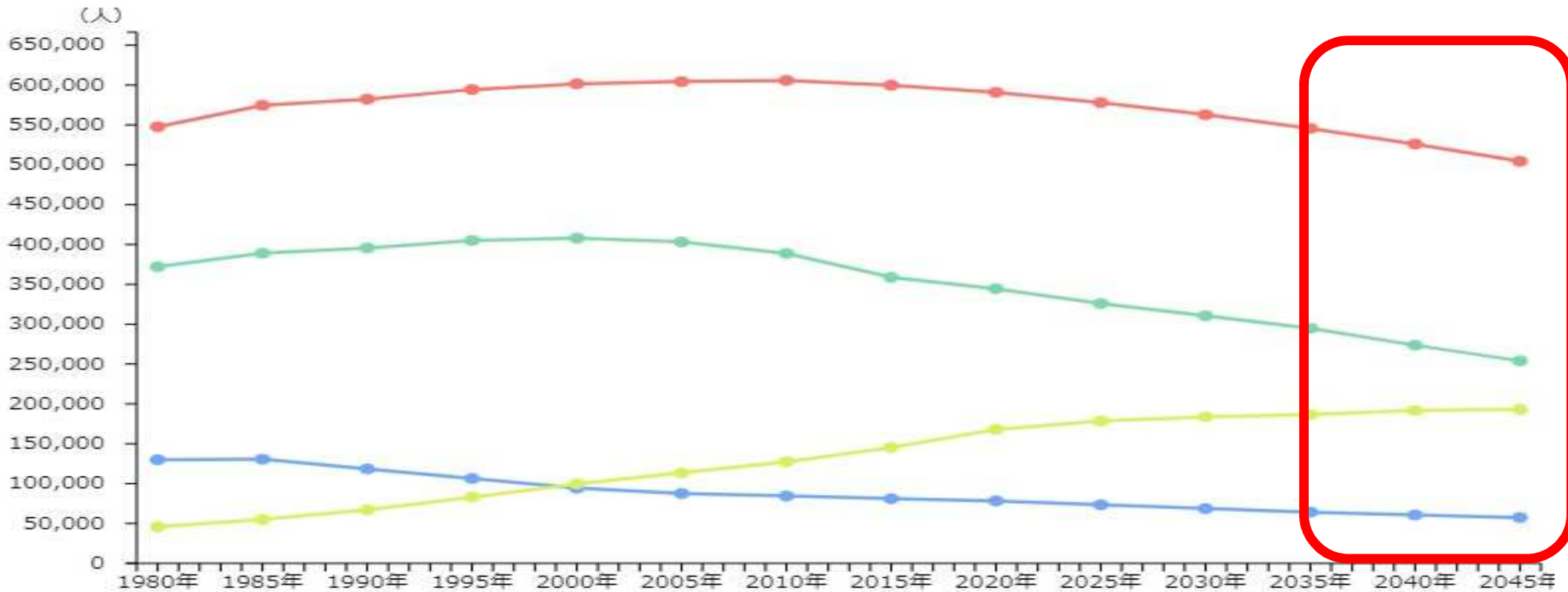
鹿児島市の課題③：高齢化 ～医療費の増大～

人口推移

鹿児島県鹿児島市

老年人口
のみ増加！

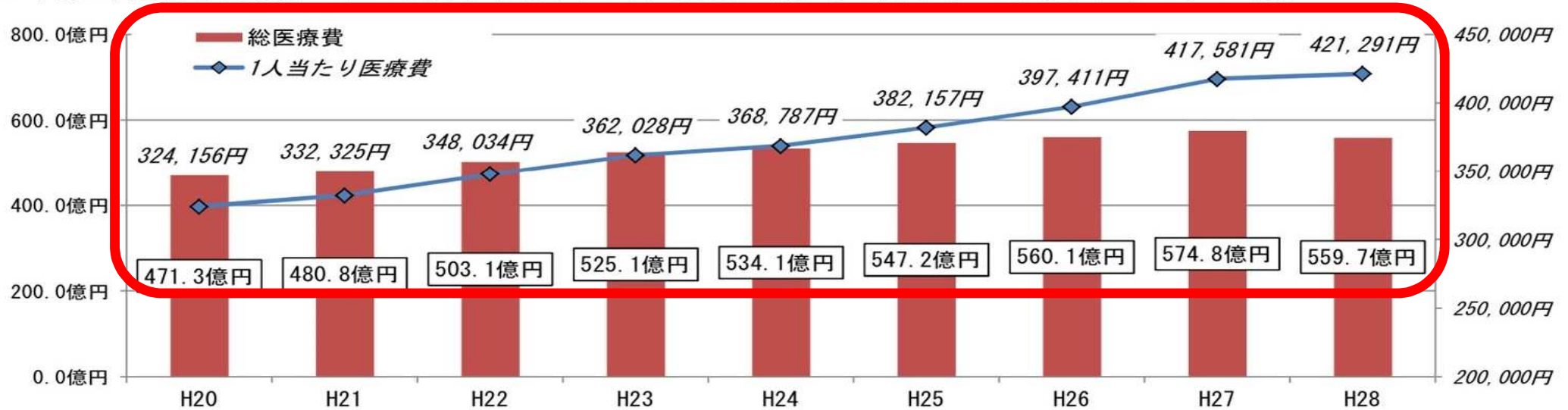
● 総人口 ● 年少人口 ● 生産年齢人口 ● 老年人口



医療費からみる鹿児島市の高齢化

↓鹿児島市の総医療費及び1人当たり医療費の推移

- ・ 総医療費及び1人当たり医療費ともに、高齢化の進展等により、増加傾向
- ・ 28年度1人当たり医療費421,291円は、中核市(48市)では高い方から4番目【H28中核市平均370,378円】



医療費が高い要因の1つとして、鹿児島市国民健康保険は前期高齢者(64歳～74歳)の加入割合が約40%と高い水準である(平成28年度)ということが考えられる。(※出典 鹿児島市国民健康保険財政健全化計画)

このままの勢いで高齢化が進めば対策が追いつかず、「鹿児島市が負担しなければならない**医療費の増大**」などの「高齢化に関する様々な課題」が深刻になる

→**健康寿命を増進させることが医療費の削減につながる！？**

※出典 鹿児島市国民健康保険財政健全化計画

私たちが考えたこと

待機児童が多い

保育士不足

高齢化による
医療費の増大

これらの課題を組み合わせ、
すべての課題が良い方向に向かうような政策
ができないかな、



私たちは、
「まだ働ける」「子供と接しながら働きたい」シニア
にアプローチし、「健康寿命を増進させる」ことが
鹿児島市の課題解決の糸口になるのではないかと
考えた。

シニアキャンパスライフ

- ・内容 保育士資格を得るために必要な能力・知識を得るための勉強会を実施
- ・場所 鹿児島大学郡元キャンパスの空き教室
- ・日時 週2日 90分×2コマ 教室が空いている時間
- ・受講料 無料(テキスト代のみ自己負担)
- ・実施期間 約1年間
- ・対象者 「仕事を一旦引退したがまだ働ける」かつ「子どもと接しながら保育士として働きたい」という60歳以上の高齢者
- ・募集定員 60名

主な政策の流れ

大学内

- 保育士資格を得るために必要な能力を身に付ける
- 保育に関する知識や考え方を仲間と共に形成

保育士資格取得

就職

- 自分で収入を得ることができるようになる
- 待機児童と保育士不足の解消に 貢献！

政策内容：キャンパスライフ

★保育士資格を得るために必要な知識・能力を身に付ける

【保育士資格取得試験内容】

①筆記試験②実技試験(童謡演奏、絵画、朗読)

・鹿児島大学郡元キャンパスの教室が空いている時間で週2日、講義(筆記・実技)を行う(約1年間)。講師は保育士資格保持者や鹿児島大学教育学部・他大学(保育専門学校)の教授等。

→「実際に保育士資格を持ち、子どもとかかわって学んだ・働いた経験がある」、また、「専門的に研究している」という方々を講師に迎えることで、より短期間で内容の濃い講義が期待できる。

また、受講者はこのシニアキャンパスに「在籍」するため、講師側は実際の大学の講義のように出欠をとったり、課題を提示したりする。

→**高齢者には大学生になったつもりで保育を学んでもらう。**

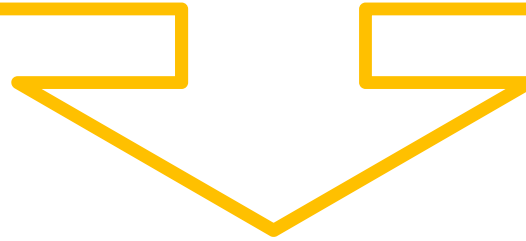
政策内容：キャンパスライフ後

シニアキャンパスライフの修了者は、県の指定試験期間【一般社団法人全国保育士養成協議会保育士試験事務センター】が行う保育士試験(半年ごとに年2回実施)を受験する。

不合格の場合→補講を実施し、2回目の受験での合格を目指す。

合格の場合→鹿児島市が就職先(人手不足の保育園)を紹介する。

→修了者のスムーズな就職と活用が期待できる。



「シニアの保育士」が

人手不足の保育園の即戦力になる!!

シニアキャンパスライフのもう1つの目標 ～健康寿命増進～

★受講者同士の「つながり」を生み出す

・定年退職後は、社会や人とのつながりが薄れやすい

→ シニアキャンパスライフは

- ・外に出るきっかけになる
- ・受講者同士で交流できる
- ・子どもと関われる資格の取得が可能
- ・「つながり」は就職後にも役立つ
- ・大学生活のような体験ができる

⇒健康寿命の増進につながる

保育士育成の中でも「シニア」に アプローチすることのメリット

- ①定年退職後も体力的に働ける人が増えている。
- ②子育て等の経験が役立つ。
- ③保育士資格の取得には年齢制限がない。
- ④一般的にシニアの求人は少ないが、保育士の場合は待機児童問題や保育士不足が深刻であるため、年齢不問で求人することが多い。
- ⑤若い世代よりも時間に余裕が出てくる人が多い。
- ⑥「仲間と学ぶ」「子どもとかかわることが」健康寿命の増進につながる。

→「シニアの保育士」は大注目!!

鹿児島大学で行うことのメリット

①「誰でも」勉強できる環境が整っている

→バリアフリー設計

②交通の便が良い

→公共交通機関でのアクセスが可能

③「大学と地域が連携して鹿児島市の課題を解決に導く」という可能性を秘めている

→よりよい鹿児島のまちづくりに鹿児島大学も貢献できる

この政策にかかる主な費用

教室の光熱費

- 鹿児島大学が負担

テキスト代

- 受講者が負担

講師等の人件費（時給約1万円×90分2コマ×週2回12ヶ月→1人あたり約2880,000円）

- 鹿児島市・鹿児島県・★保育士不足の保育園が負担

広告費（参加者募集, ★人件費負担保育園の募集）

- 鹿児島市・鹿児島県が負担

★鹿児島市にある保育士不足の保育園が人件費の10%を負担
→費用を負担した保育園を、優先的に修了者に紹介する

保育園と鹿児島市がwinwinの関係に！

政策におけるそれぞれの役割

鹿児島大学

教室の提供

講師の提供

鹿児島市

参加者の募集

費用の補助

講師の確保

保育園

費用の補助

修了者の
受け入れ

この政策を行うことで得られる効果

保育園

- 保育士不足の解消
- 保育環境の充実

鹿児島市

- 待機児童数の減少
- 子どもを育てやすい環境の整備
- 健康寿命の増進による医療費の削減

高齢者

- 収入が生活の糧になる
- 健康寿命の増進

まとめ

高齢者を対象とした「保育士資格を得るための学習会」を
鹿児島大学で実施する



保育士として鹿児島市の保育園で働いてもらう



保育士不足や待機児童の解消とともに、高齢者の活用や健康寿命の増進につながる

将来展望



他大学でも実施するなどして、
鹿児島市以外の地域にも波及させることができる

参考資料

- ・朝日新聞デジタル

<https://www.asahi.com/articles/ASK8R5JQZK8RTLTB008.html>

- ・鹿児島労働局

<https://jsite.mhlw.go.jp/kagoshima->

roudoukyoku/jirei_toukei/toukei/kyujin_kyushoku/koyousitugyou.html

- ・厚生労働省 令和2年4月1日現在の待機児童数について

<https://www.mhlw.go.jp/content/11922000/000666988.pdf>

- ・鹿児島県ホームページ 保育を取り巻く環境

https://www.pref.kagoshima.jp/ae32/documents/71249_20200326153935-1.pdf

- ・厚生労働省 報道発表資料

<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/index.html>

- ・鹿児島市国民健康保険財政健全化計画

<https://www.city.kagoshima.lg.jp/shimin/shiminbunka/kokuho/documents/kenzenka.pdf>